

# 弓道競技の成功で最終を飾る

第67回国民体育大会「ぎふ清流国体」弓道競技が10月6日から4日間、まきがね公園特設弓道場で開催されました。全国の代表314人の選手らは、研ぎ澄まされた弓道の技を競い合いました。6日には、皇族の瑤子女王殿下がお成りになり、競技をご覧になりました。開始式を含む来場者は、目標の1万人を大きく上回る2万6600人。大変盛り上がる大会になりました。

的の中心を狙い、得点を競うものです。競技の種別は、少年男子、少年女子、成年男子、成年女子の4種別。1チームは3人で、種別ごとに競技や表彰が行われました。前日の5日に恵那文化センターで行われた開始式では、1200人も来場者の前で選手の紹介や選手宣誓、アトラクションなどが行われました。

開始式と競技の4日間を合わせた来場者は、目標の1万人を大きく上回る2万6600人でした。1月に開催されたスピードスケート競技会と弓道競技会を通じては、5万6900人が来場。市民の皆さんの協力で両大会を成功することができました。



▲特設のスタンドで応援する観客

## 目標を上回る来場者数

ぎふ清流国体の本大会が、9月29日から10月9日まで県内各地で行われました。当市では、弓道競技会を10月6日から9日まで開催。全国から92チーム、314人の選手らが参加し、古くから日本で行われてきた弓道の技を競い合いました。競技種目は、近的競技と遠的競技の二つ。近的競技は、まきがね公園体育館、遠的競技は、多目的グラウンドの特設会場で行われました。両会場とも、この大会のために特別に設置されました。

## 瑤子女王殿下がお成り

6日には、皇族の瑤子女王殿下がお成りになりました。瑤子女王殿下は、三笠宮家の故寛仁親王の次女。市内では、大井町の明治天皇行在所に立ち寄られた後に、まきがね公園での近的競技少年男子の弓道競技をご覧になりました。

## 多くの市民が活躍

会場では、国体を一層盛り上げるため、多くのボランティアや市民の皆さんが活躍しました。会場の外のテントでは、恵那の味を取りそろえたグルメ祭やバザーを開催。えなハヤシや五平餅など、恵那の自慢の食べ物も準備しました。昼時には、選手や観客など大勢の人でにぎわいました。休憩所では、ボランティアの皆さんがお茶やスポーツドリンクなどをサービス。会場では、ごみを分別して片付ける係など、多くのボランティアが活躍しました。

## ティアが活躍しました。

その他、競技の補助や弓道体験コーナーなどでも市民の皆さんが競技会の盛り上げに貢献しました。ボランティアや役員など、競技会に協力した方は、4日間で延べ約1360人になります。清流ミナモ広場では、フラダンスや幼稚園児らのミナモダンス、串原の中山太鼓などが披露され、選手や観客を歓迎しました。

## 岐阜は成年男子が8位

大会では、弓道の全競技種目を合わせた男女総合で、高知県が優勝。岐阜県の代表として出場したチームは、遠的競技の成年男子が8位に入賞しました。当市は、県内でも比較的弓道が盛んな地域ですが、今大会では市内の出場選手はありませんでした。



▲集中して的を狙う近的成年女子の岐阜県代表選手

## 使いやすい会場でした



選手  
奥村果穂さん  
(高知県少年女子の部)

遠的と近的競技で優勝に貢献できました。この会場には2週間前にも訪れるなど、練習ができる機会に恵まれました。遠的と近的の会場は、両方が近い場所だったので、移動が楽で、使いやすいかったです。恵那市は、山や緑が多く、空気がきれいだと思います。少し高知にも似ていて、その安心感が後押ししてくれたのかも知れません。

## 矢が速くてびっくり

弓道は、映像では見たことがあります。本物は初めて見ました。矢が目の前を「シュッ」と速く飛んでいくのには、びっくりしました。あまりにも速くて、当たったかどうか分からずに、拍手するのが遅くなってしまいました。静かにしないといけなかったので、緊張しました。弓道での集中は、勉強するときにも大事だと思いました。



観客  
渡辺由紀乃さん  
(明智小2年)

総合優勝や各種目の優勝チームには、表彰式で市長から当市の特産品の詰め合わせが手渡され、喜ばれました。



▲瑤子女王殿下が競技をご覧



▲東北支援のための物産販売



▲多くの人に恵那の味を提供



▲園児がミナモダンスを披露



▲弓道体験コーナーを開設



▲8日に行われた特別演武